

## ほんにんかつどう 本人活動について

ならざき まゆみ  
奈良崎 真弓

### ● 本人活動の会のこと 説明

- 障がい者(本人)たちとその関係する支援者が集まって、休みの日や仕事が終わったあとにやる。
- 話し合い 自分たちに関係する制度など
- レクリエーション、食事会、カラオケ、バーベキューなど
- その他ほかの仲間たちとの交流をしたり、意見交流会をしています

### ● 日本にも本人活動の会ができた～歴史について

知的障がい者の本人たちと支援者と合わせて10名が日本で始めて世界で行なわれた本人大会に参加しました。そこでは世界の同じ知的障がい者の本人たちが自分たちのことや体験してきたことや自分の障がいについてを本人が発表がありました。日本に戻ってきて同じ仲間や関係者などに報告がありました。1年後に北海道・徳島・長崎・東京で本人活動の会を作りました。その頃はまだ活動するためのお金がなく支援者もいませんでした。それに活動する場所もありませんでした。そのために親の会や施設の支援者にやっていた。何年後になった仲間たちと友だちができて全国に本人活動の会が広がりました。

今では日本に約100くらいになりました。

### ● 世界大会

日本の本人活動と世界との交流する場があります。4年に1回に世界大会があります。いっぱい日本の本人たちや関係する人たちがお金をためて参加しています。本人たちは育成会やピープルファーストの仲間が参加しています。

その大会のテーマは世界大会のリーダーや本人たちがプログラムを作りました。分科会は①自分の障がいについて②制度、暮らし、働く場について③障害者権利条約について④情報、本人の会について⑤支援者についての5つがあります。この大会は約1週間くらいありました。分科会をやっている中に自分で観光している仲間たちが多かったです。

### ● アジア大会

2年に1回、アジア大会があります。発達障がい者も参加しています。育成会に関

けい なかま さんか 係する仲間も参加しています。なかみ せかいたいかい ぶんかかい か 中身は世界大会の分科会と変わりせん。あじあたいかい アジア大会は かこく さんか 14カ国が参加しています。ことし かい 今年で24回もやっています。はじ さんかしゃ しえんしゃ 初めの参加者は支援者だけで ほんにん さんか 本人たちが参加していませんでした。ねんめ ほんにん さんか 3年目からようやく本人たちが参加するようになり ほんにん かんけい ひと かね さんか ました。本人たちや関係する人たちがお金をためて参加しているのです。

## ●JICA

ほんにん はじ じゃいか ちてきしょう しゃ せんもんか たい まれーしあ みやんまー 日本で初めのJICAで知的障がい者が専門家としてタイ、マレーシア、ミャンマーに いきます。め こんがわしゅうへん ほんにん なかま じゃいか ひと わたし こうりゅう 行きました。メコン川周辺の本人たちの仲間とJICAの人と私が交流をしながら いけん い 意見を言いました。その後、ご たい みやんまー べとなむ らおす かんぼ じゃあ 意見のことも聞きました。ポイント① ほんにん きょういく はたら ば せいで 国には教育や働く場が制度そしてあるけど、 め こんがわしゅうへん ほんにん なかま とく じぶん かなか じょうほう メコン川周辺の本人たちの仲間にはありませんでした。特に自分に関わる情報が おお すく さべつ ひと おお じぶん しょう しゃ 多いこと少ないことで差別されている人が多い。自分が障がい者であることを し 知っている人が多い。いけんこうかん じぶん しょう きょういく はたら ば 意見交換をすることで自分に障がいがあっても教育や働く場 や制度や情報を受ける権利があります。その他としていろんな意見がありました。 ② じぶん にほん かいがい い べんきょう 自分たちも日本から海外に行つて勉強することができます。だすきん、 ぴーぶるふあーすととりーだー あめりか ープルファーストリーダーがアメリカなどがやっています。

## ●自分が知的障がい者でも参加ができる「場」

- ① ぴーぶるふあーすとたいかい いくせいかい ぜんこくたいかい さんか ープルファースト大会や育成会の全国大会などに参加ができます。
- ② ぐるーぶほーむがっかい さんか とく ぐるーぶほーむ 暮らしている仲間には参加してほしい。
- ③ じもと ぶろっくたいかい さんか たいかい いくせいかい かつどう ひと 地元のプロック大会に参加ができます。この大会は育成会で活動をしている人なら参加ができます。

## ●神奈川県と知的障がい者に関する事でお願いしたいこと

- ① ほんにん かい かつどう み きて かつどう かね かんが 本人の会の活動を見に来てほしい。そして活動するためのお金を考えてほしい。
- ② ほんにん ぴあ さぽーと しごと やくわり 本人のピア・サポートを仕事として役割をしてほしい。
- ③ じりつしえんきょうぎかい けん いいんかい ちてきしょう しゃほんにん だんじょかく1めい 自立支援協議会や県の委員会などに知的障がい者本人をできたら男女各1名を 入れてほしい。
- ④ いいんかい とき ほんにん しえんしゃ しゃれいきん かんが しえんしゃ 委員会のその時に本人たちと支援者に謝礼金を考えてほしいです。支援者がい ることは本人たちにとって大切な役割があるということを理解してほしい。それと 合理的配慮も忘れずに。
- ⑤ いま ちてきしょう しゃ かんけい おや かんけい せんもんか き 今までは知的障がい者に関係することは親たちや関係する専門家に聞いていた けど、ほんにん きき 本人たちに先に聞いてほしいです。

## ●まとめ

- ① 知的障がい者たちは1人1人にできないこととできることがあります。なので1人1人を理解してほしい。
- ② 私たちのことを私たち抜きで決めないでほしい。あと1人の人間として見てほしい。

## <解説> (文責・小林 博)

- 本人活動とは、障がい者同士が集まって、様々な自主的な活動をするグループ活動である。日本では、特に知的障がいをもつ当事者たちの自主的活動を指してこの用語を使っている。基本的にはあくまでも当事者が運営の中心を担っているが、活動を進めて行くためには支援者の存在が不可欠で、親の会や行政機関、社会福祉協議会などがバックアップしている場合もある。

- 日本の本人活動のグループの数は、2005年の全日本手をつなぐ育成会の調査によると全国で239箇所となっている。グループの構成員は、10人前後のところが多いが、数人から数十人まで様々である。親の会のバックアップから生まれたもの、行政・社協などの支援をうけているもの、カナダを発祥地とする世界組織であるピープルファーストの流れを組むもの、など色合いが違うグループが混在している。ただし、上記2005年の調査を最後に本格的な本人活動についての実態調査はなされず、現状の把握が急務である。

- 神奈川県内の本人活動のグループ数は、上記2005年の調査で15箇所となっている。本委員会の当事者委員の所属する本人活動グループは、小西委員(ピープルファースト横浜)、富田委員(ブルースカイクラブ)、奈良崎委員(にじいろでGO!)である。ただし、上記の通り、本格的な調査が途切れたままで、各グループの横のつながりもほとんどないので、県内の本人活動グループのネットワーク組織化が当事者の間で議論されている。

- 本人活動の具体的な活動内容は、当初はカラオケ、外出、ボウリングなどのレクリエーション活動が主軸であったが、近年は当事者の権利意識が急速に高まり、障害者権利条約、福祉サービス制度、成年後見制度、自分たちの住む場所をどう選ぶか、意思決定支援などについての勉強会・学習会も盛んに行われるようになってきている。